

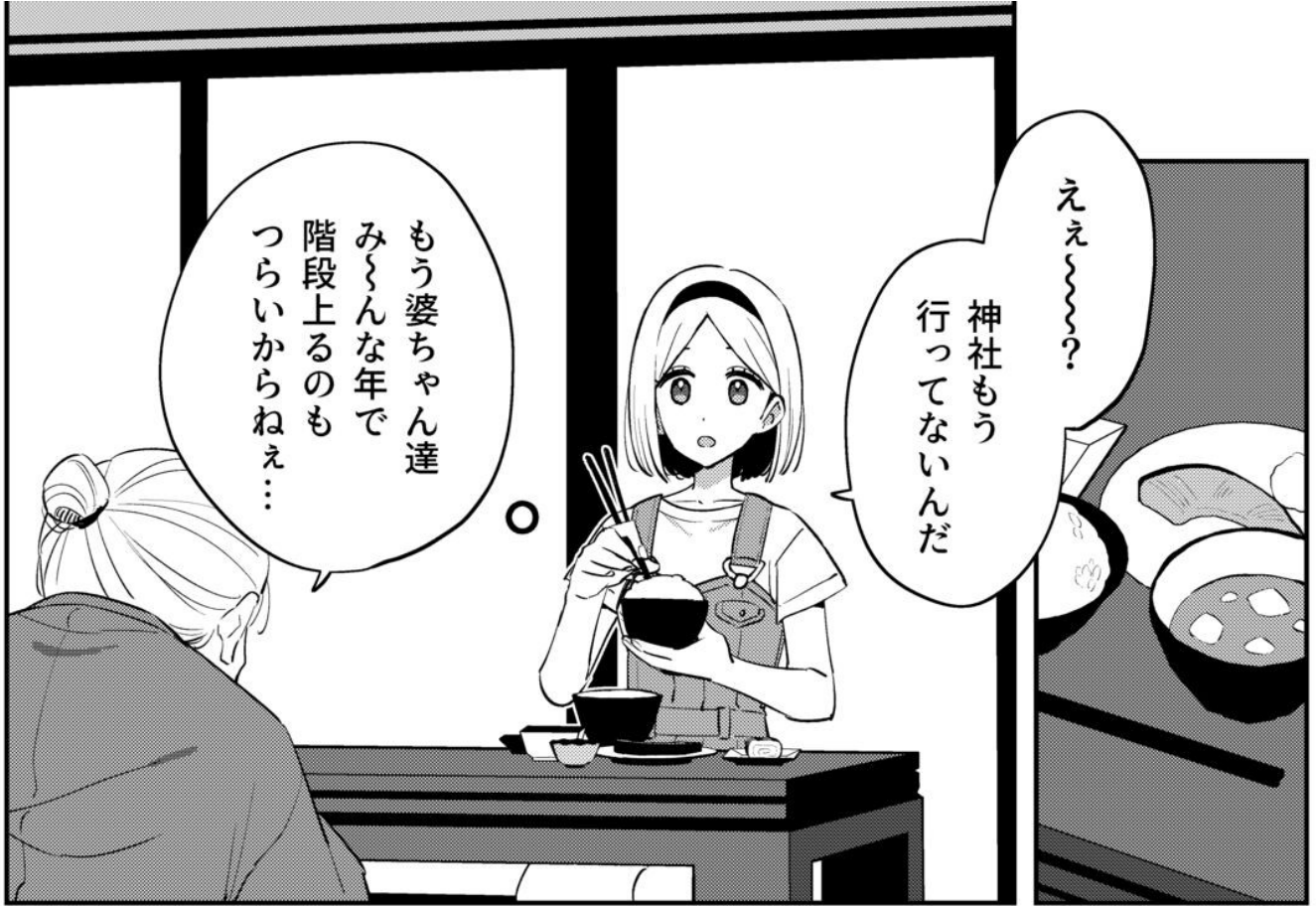
相変わらず  
景色いいなあ…

おばあちゃん家で  
過ごす  
田舎の夏休み



毎年  
一週間だけの

私の楽しみ



ええ〜〜〜？

神社もう  
行ってないんだ

もう婆ちゃん達  
みくんな年で  
階段上るのも  
つらいからねえ…



ありがとうねえ  
ひよちゃん  
神様もきつと  
喜んでくれるよ

でも  
古くて危ないから  
本堂には近づいちゃ  
ダメだからねえ

うん  
わかった



若い人達が  
来たときは  
お掃除お願い  
してるけどねえ

そっかー…

私が明日  
ちよつと行って  
お供え物だけでも  
置いてこようか？



カエルの鳴き声  
すっごいなあ…

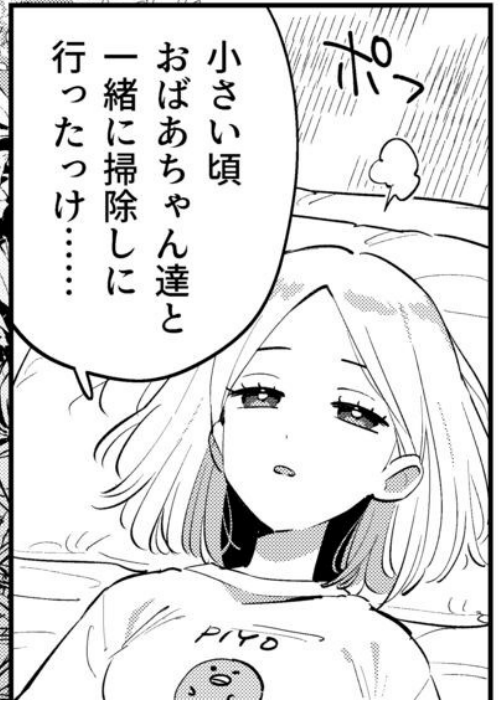


…私が  
生まれる前から  
あるもんなんぞ  
あの神社…

…そういえば昔  
あそこで誰かと  
遊んだ気がする…



誰とだっけ…



小さい頃  
おばあちゃん達と  
一緒に掃除しに  
行ったっけ…



ここは  
山の神様の  
お家だよ  
ひよちゃん

神様？



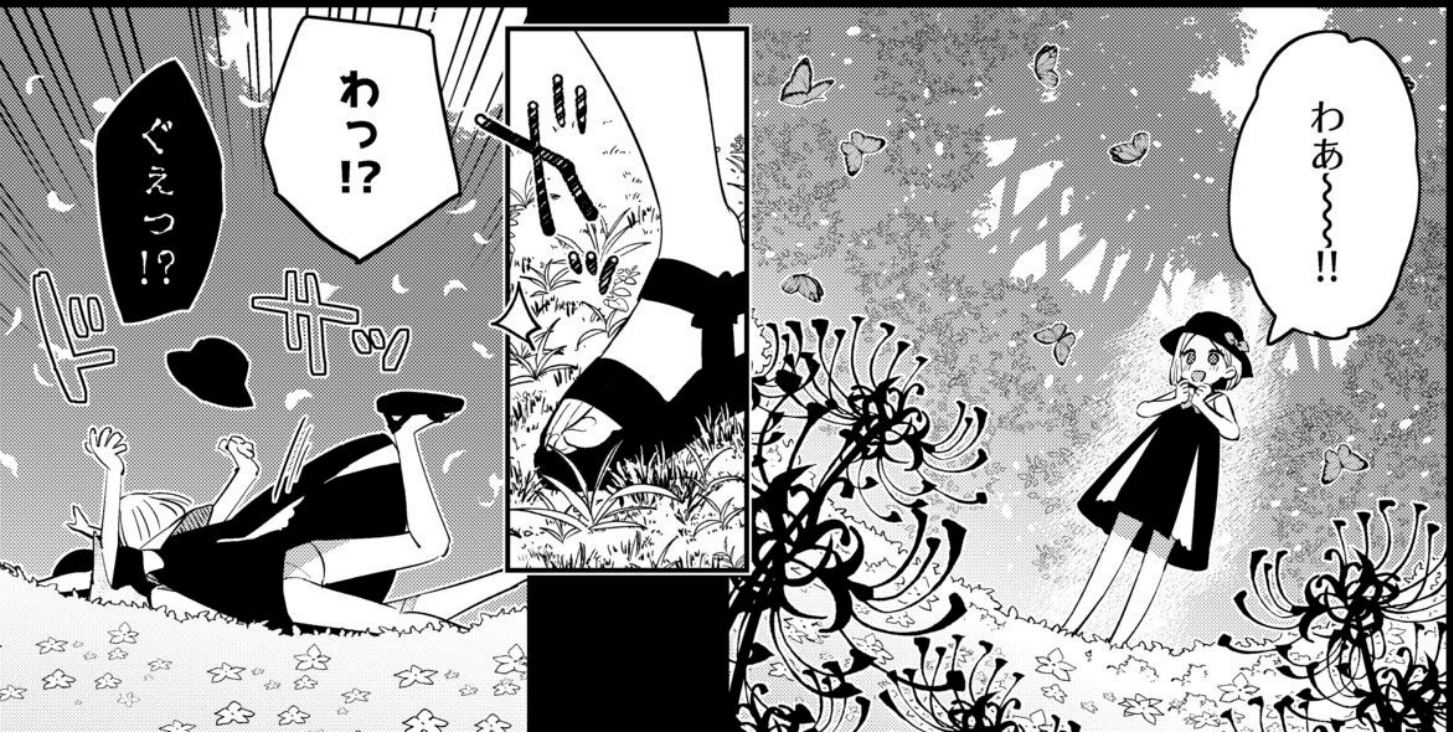
村の人達と  
順番こで  
神様のお家を  
綺麗にしてるんだよ

ひよちゃんも  
一緒にお掃除  
しようねえ

うん!!



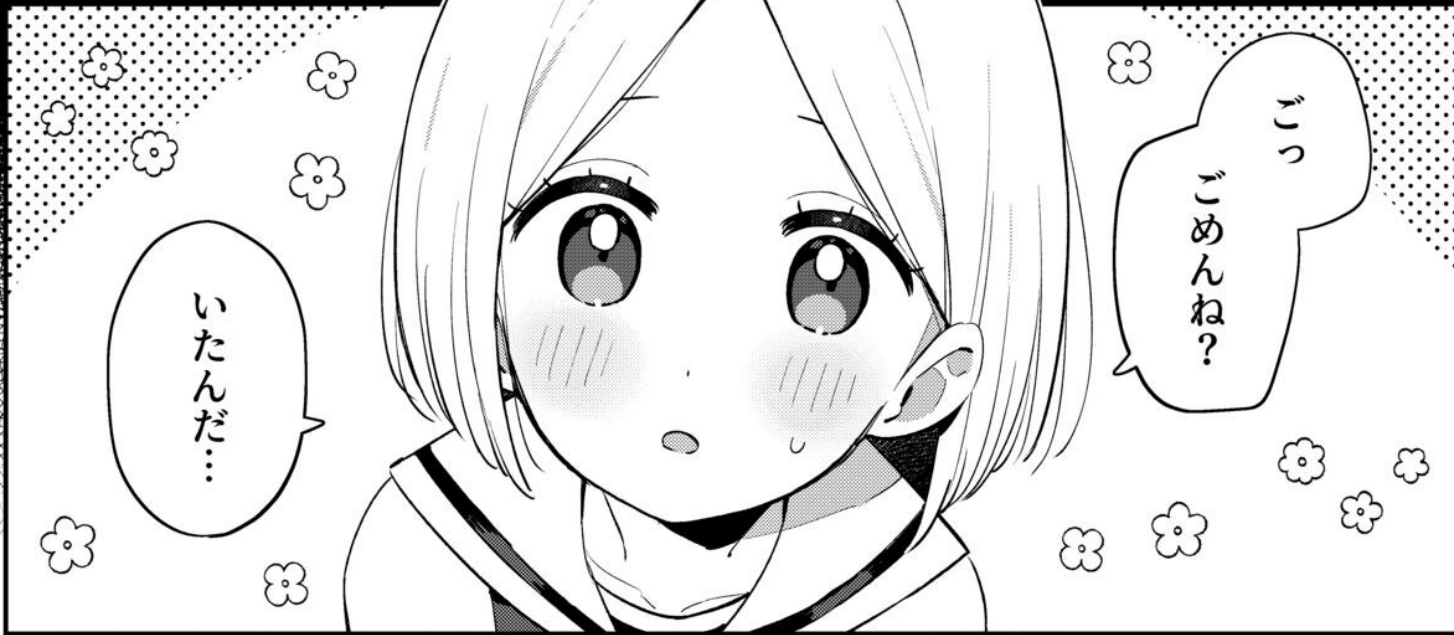
すっごい  
おっきい  
!!!





痛いじゃない...

さっしり...

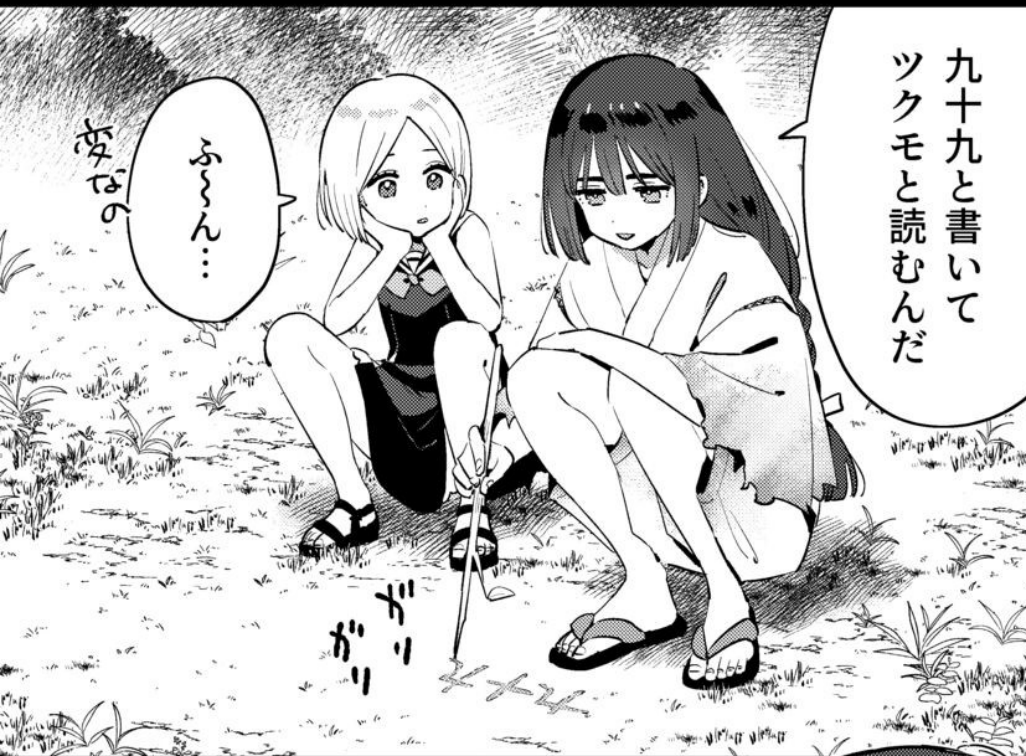
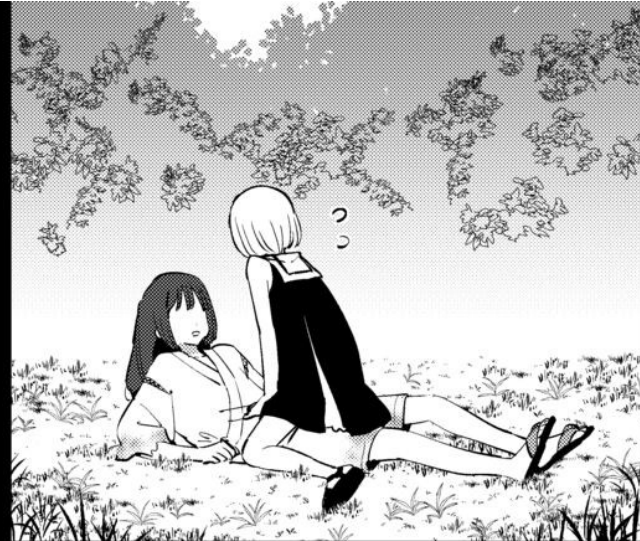


いたんだ...

さっしり  
ごめんね?



か...



これが  
九十九くんと  
の  
出会いだった

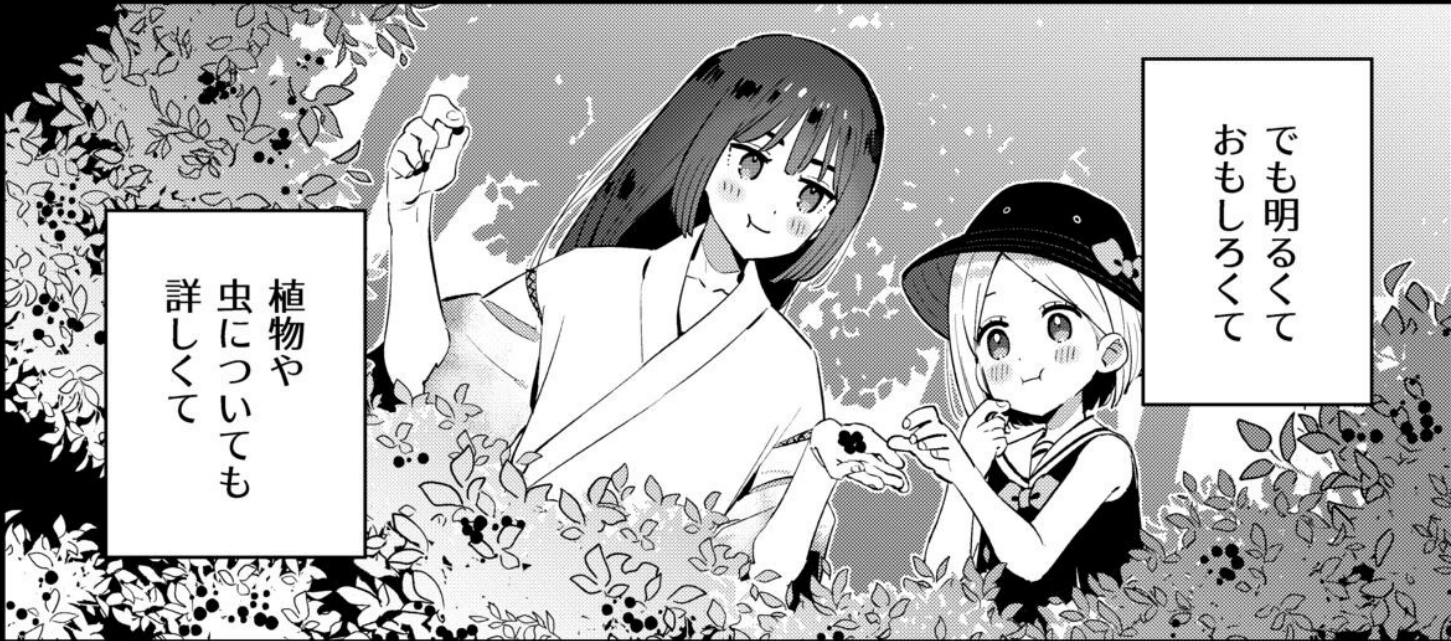


ミンカ!  
ミンカ!



九十九くんは  
肌が青白くて  
髪が長くて  
ボロボロな  
甚平を着ていて

とにかく  
不思議な  
お兄ちゃんだった



でも明るくて  
おもしろくて

植物や  
虫についても  
詳しくて



おばあちゃん家に  
泊っている間は  
毎日一緒に  
遊んでいた

そして  
おばあちゃん家で  
過ごす夏休み  
最後の日……



俺  
ひよ子のことが  
好きだ!

ずっと一緒に  
いたい!

うん

私も  
九十九くんのこと  
好き!



そうか!  
では俺の嫁に  
なってくれるな?

よし!  
子作りしよう!

コヅクリ……っ?



私そろそろ  
お家に  
帰らなきゃ…



でも  
九十九くん…

ん?



…あ



なに？

まだ  
帰る時間じゃ  
ないだろう

今はおばあちゃん家に  
遊びに来てるだけで…

うーん…  
そうじゃなくて…

本当のお家は  
もっと遠いところに  
あるんだ…

…っ！



冷たい…



嫌だ…  
ひよ子…

どこにも  
行くな…



俺を一人に  
しないでくれ…

ひよ子…

また遊びに来るよ

お正月…とか？



…絶対だぞ

う…うん

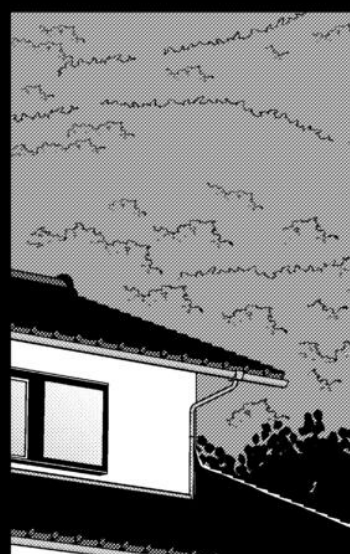
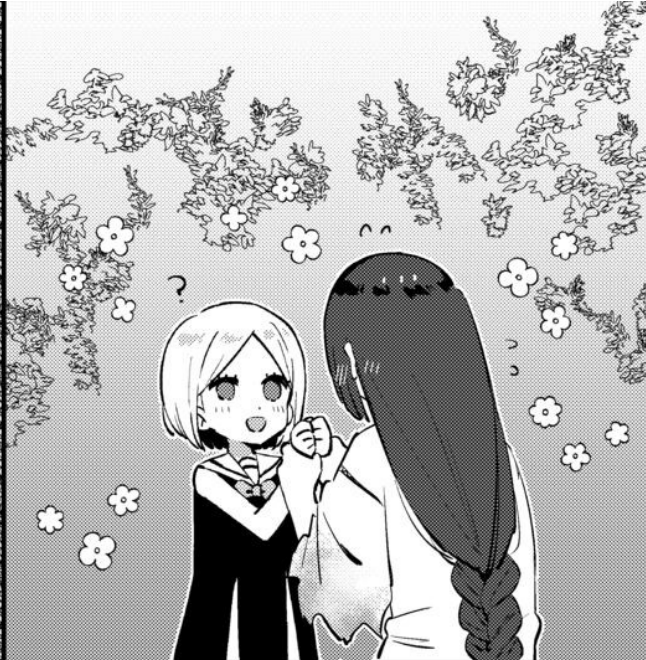
離れている間も  
俺の嫁ということ  
忘れるなよ

もし忘れたら……

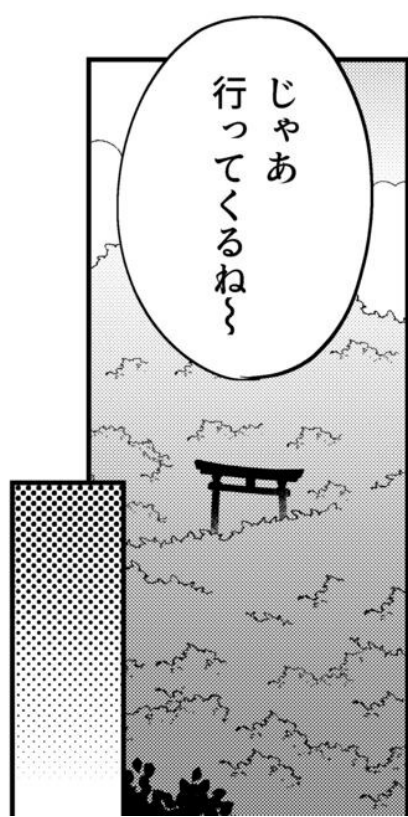
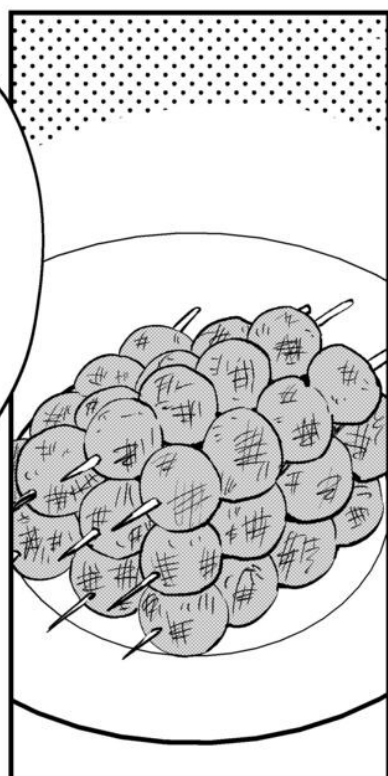
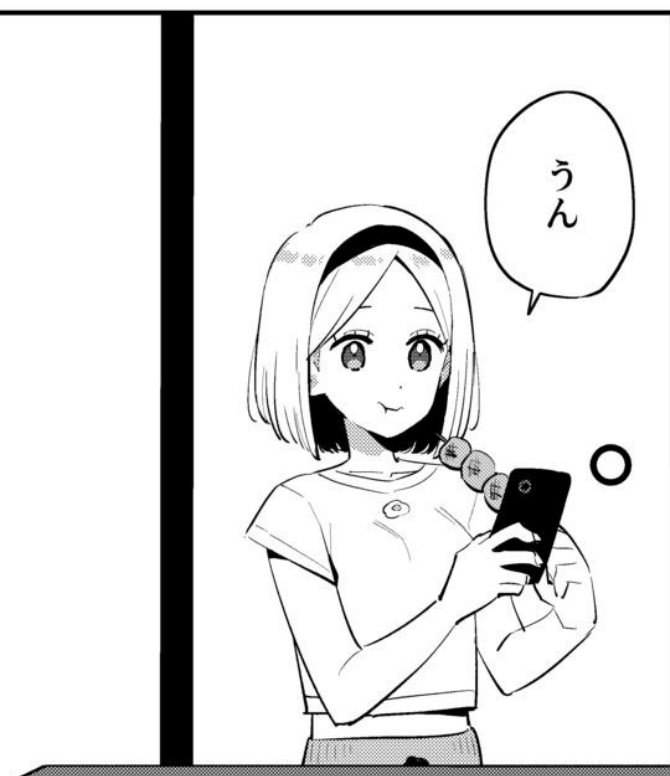
ギ  
ュッ



じゃあ  
次会ったら  
コヅクリってやつ  
しようね



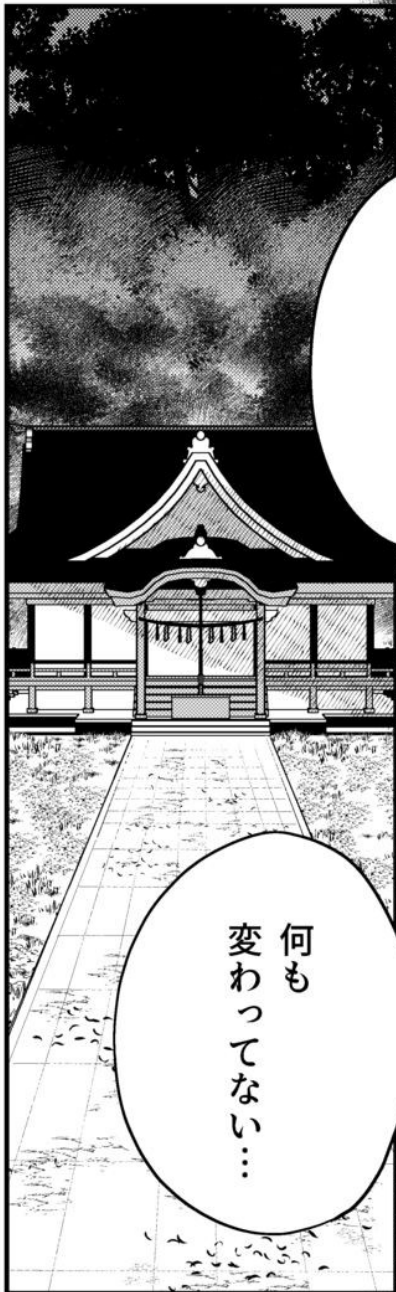
九十九くん……  
また会いたいな……





一応元田舎っ子のはずなのに  
山舐めてたかも…

確かに  
お年寄りには  
無理だよこれ…

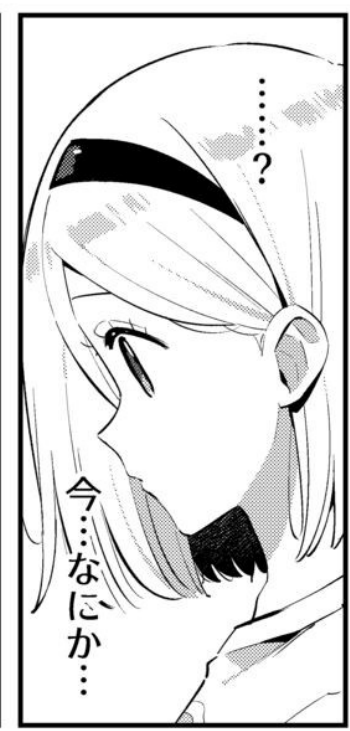
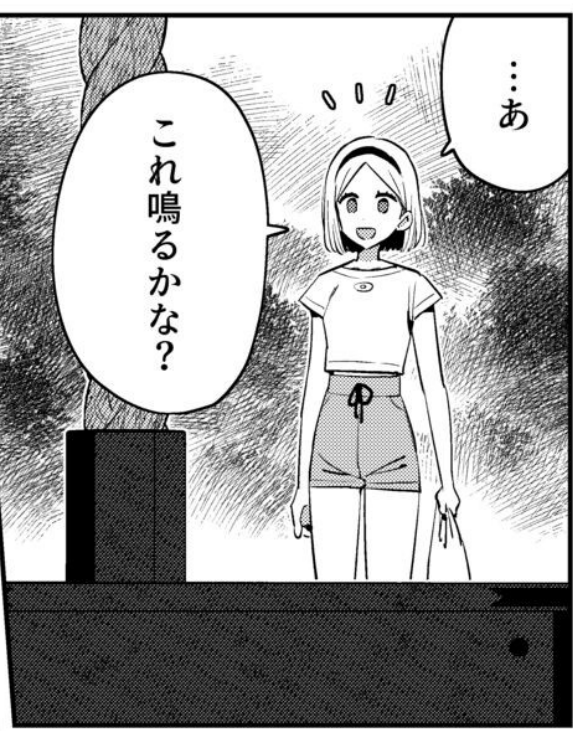


懐かしいなあ…

…うわ…

何も  
変わってない…







えっ

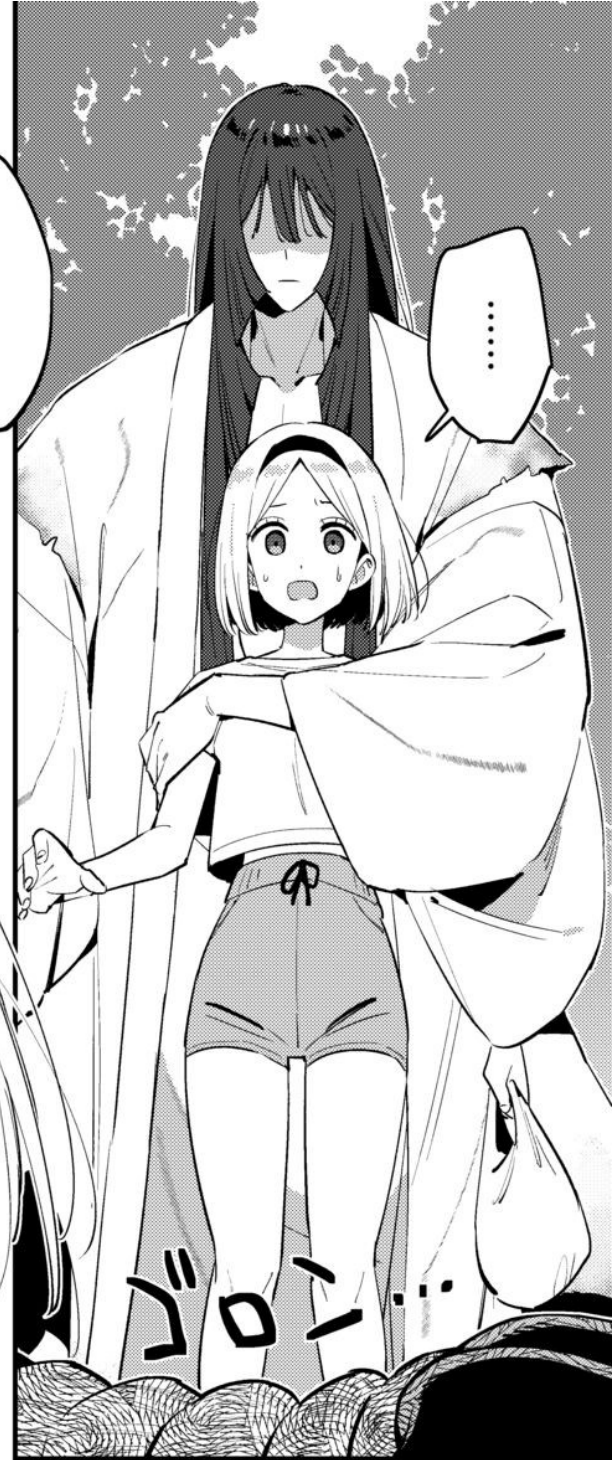
カ  
ク  
ク  
ク





…大丈夫か？

…あつ…  
えっ…



…

ゴロニ…



…！！



…！！



ほんと…っ  
危なかった…  
お兄さん  
ありがとう…！！



あ…えっと…  
ありがとう…！！

び…びっくりした…

ホッ

この人が助けて  
くれなかったら  
私……

チラ

…それにしても……



こんな田舎に  
着物のイケメン…!?

もしかして

これって

運命の……!!!?



ドキ





…この神社に  
興味があってな…

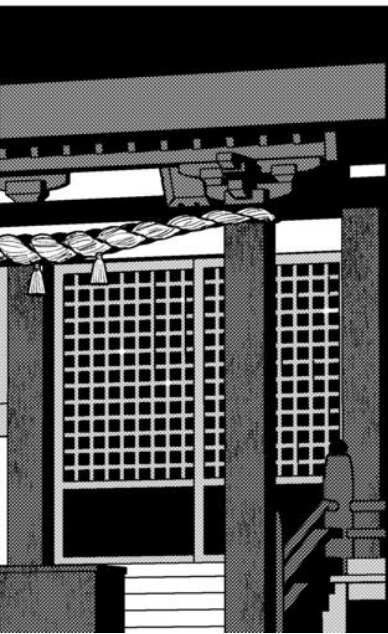
まあ…  
観光しに来た



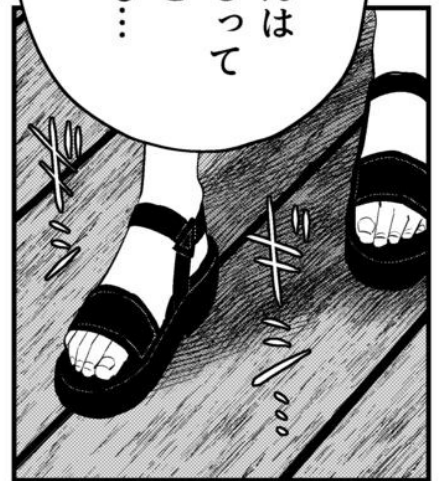
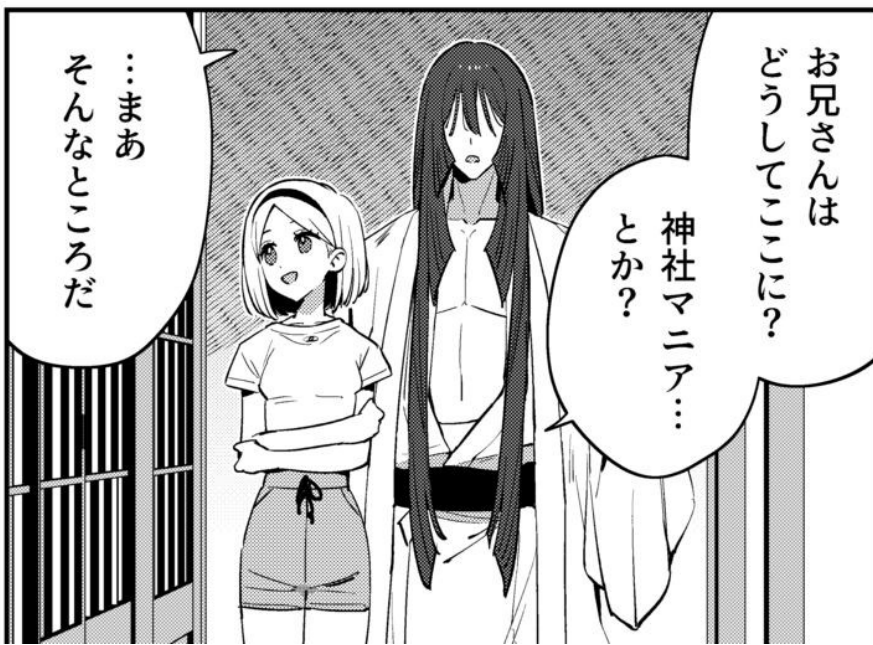
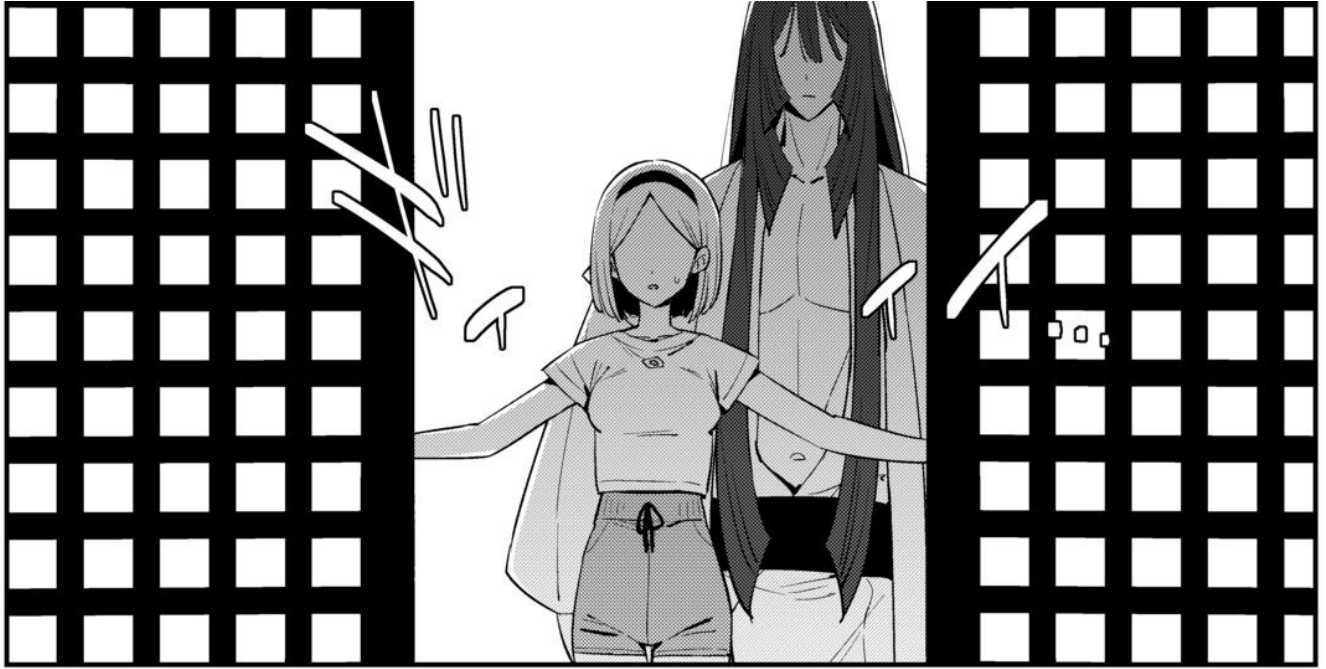
^~^!  
こんな田舎に  
お兄さんみたいな人が  
観光しに来るなんて!

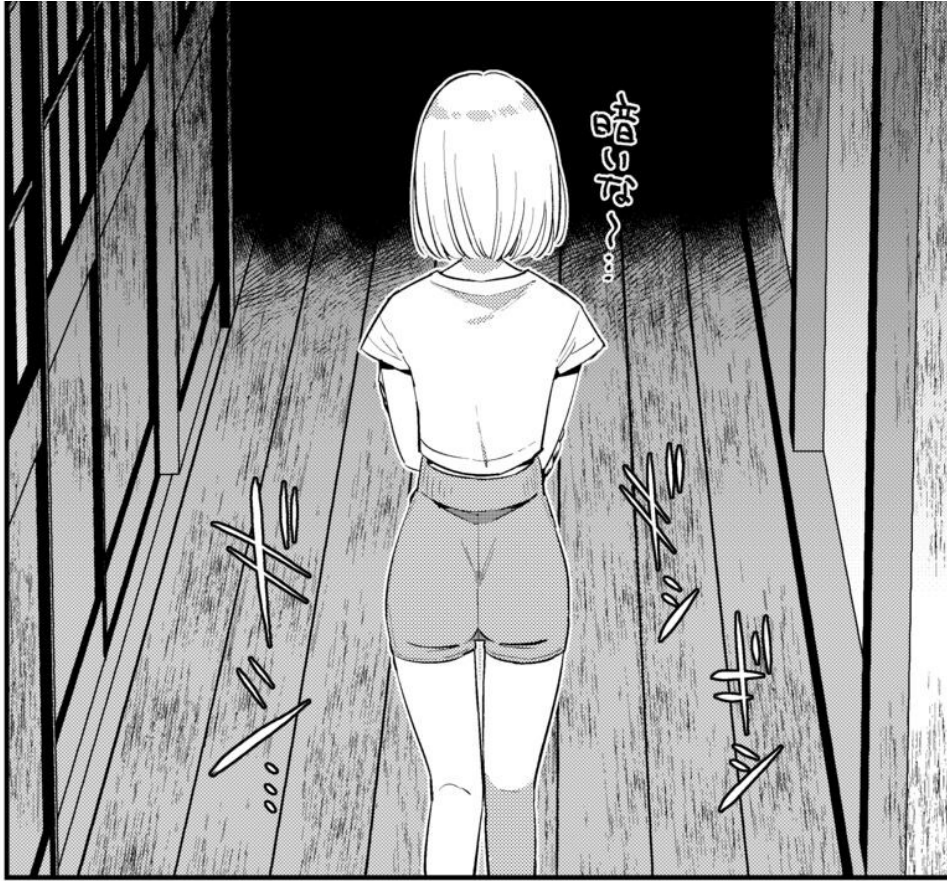
よかったら  
ちよつとだけ  
案内しましょうか?

助けくれた  
お礼も兼ねて



…ああ  
では頼む





暗い？...



配信とか  
やってるんですか？

.....?





ひっ!?

ぎやあああ  
ツ!!?





なに…これ…っ?!  
手の…おばけ…っ?!

ん…っ

ん…っ?!

ん…っ

ん…っ

ん…っ



お…お兄さ…っ  
助け…っ

はなして…っ

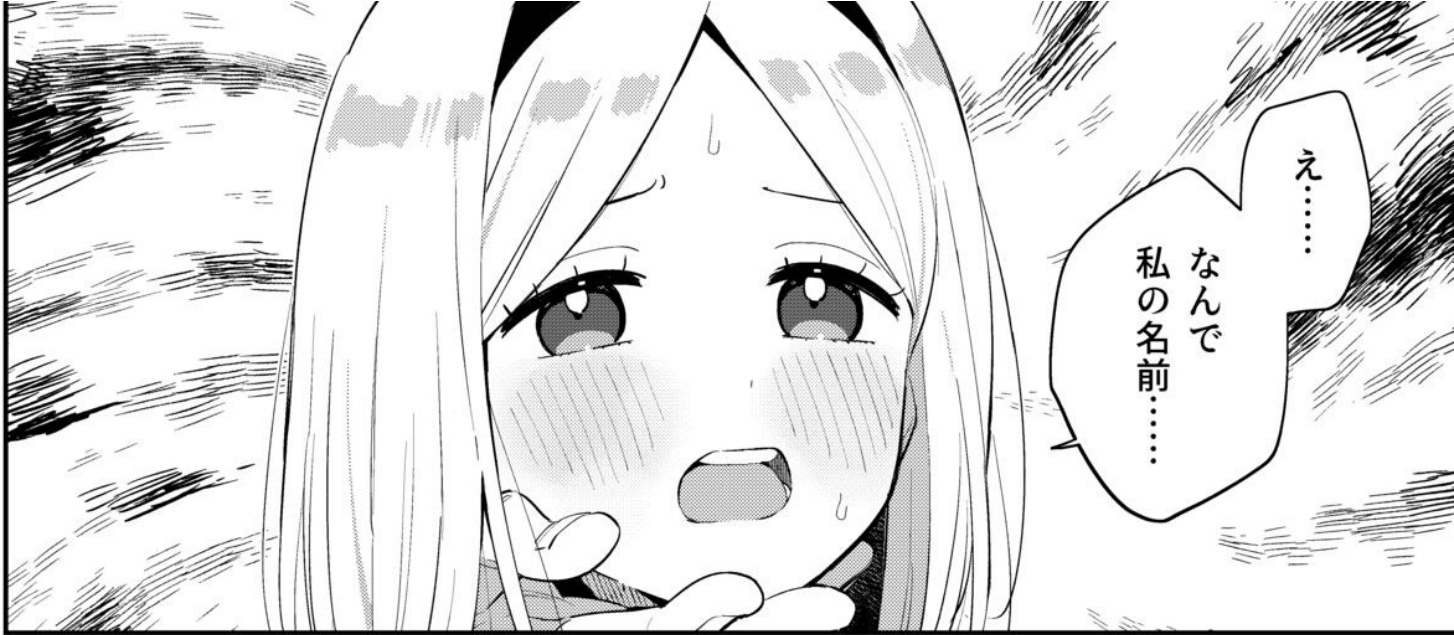
ん…っ

ん…っ



…俺のことを  
忘れたのか…?

ひよ子



え……  
なんで  
私の名前……





うそでしょ...!?

あ...っ  
やだ...!

こ...これ...  
あ...あなたが  
何か...してるの...!?

フフ...  
もっとよく  
顔を見せろ

スニッ

スニッ

スニッ

スニッ

スニッ

スニッ

グニッ

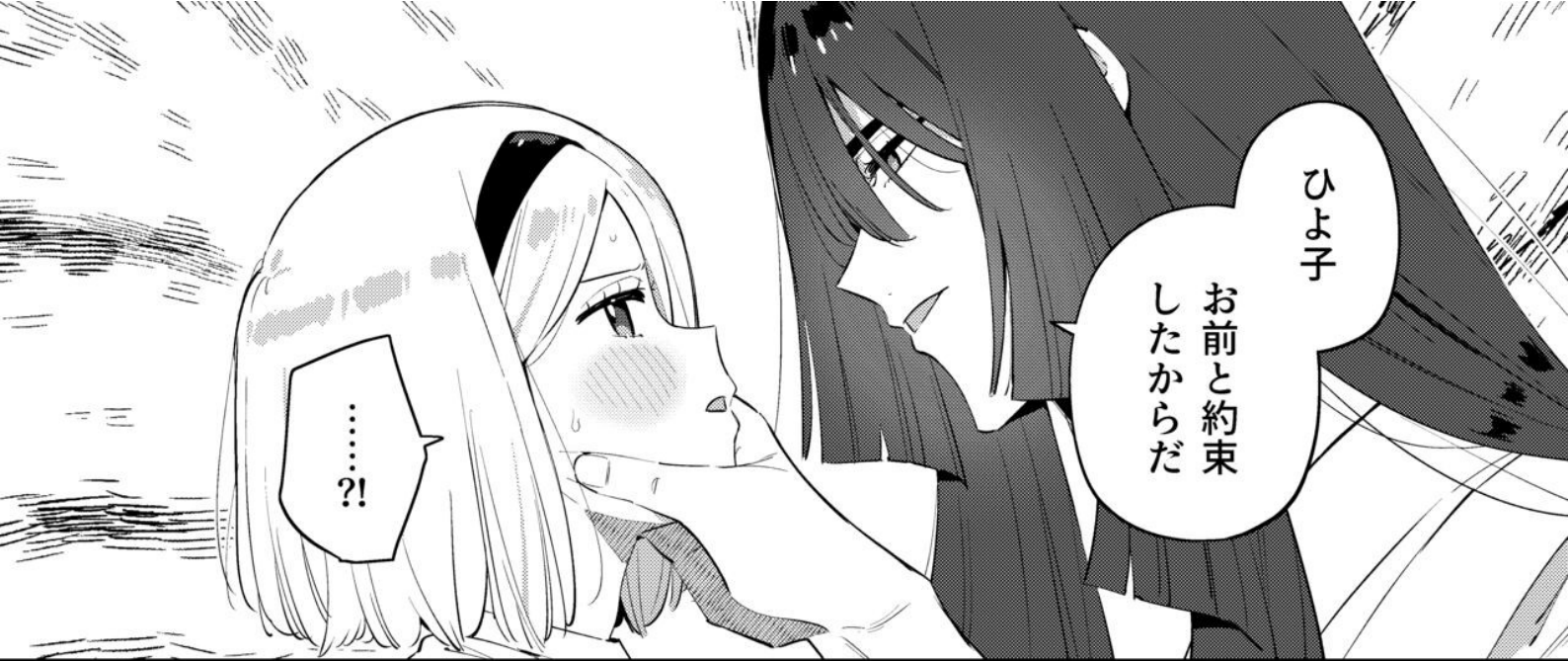
グニッ

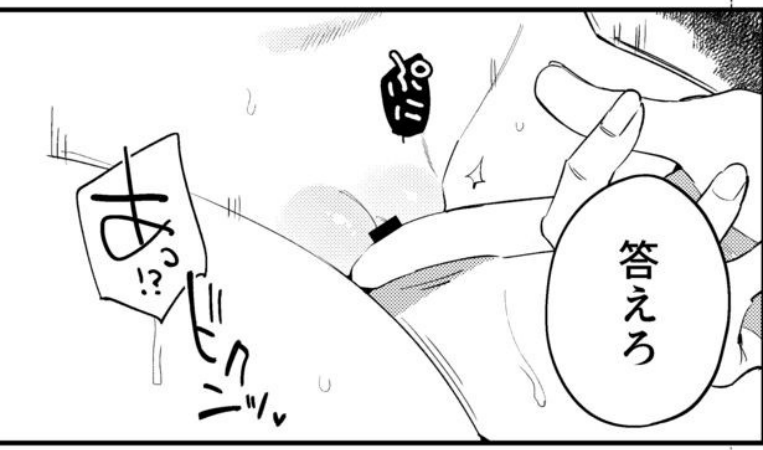
グニッ

グニッ

グニッ

グニッ







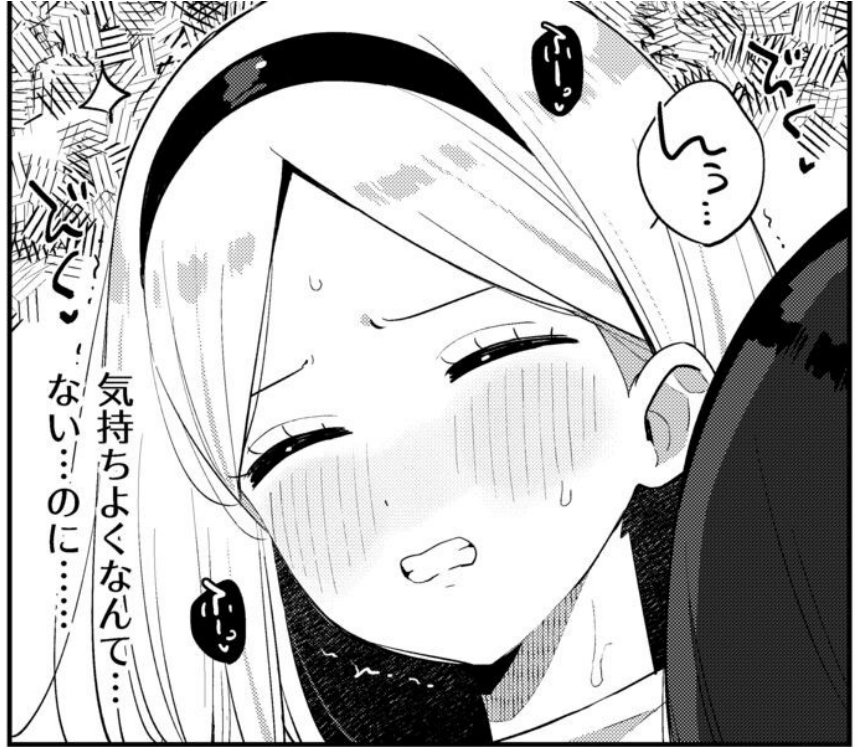
なにこれ...っ

いや...  
あたま...  
おかしくなる...っ♡



やだ...っ  
気持ちよめ...  
ない...っ...っ...

ここを触られるのは  
気持ちがいいだろう？  
ひよ子...



フフ...

気持ちよくなんて...  
ない...のに...

なんで  
身体が  
熱いの...っ!?

ひゅっ!?

指...冷たい...っ

冷たいのが膣内に入ってくる...っ♡

めちやくちやに  
されて……っ♡

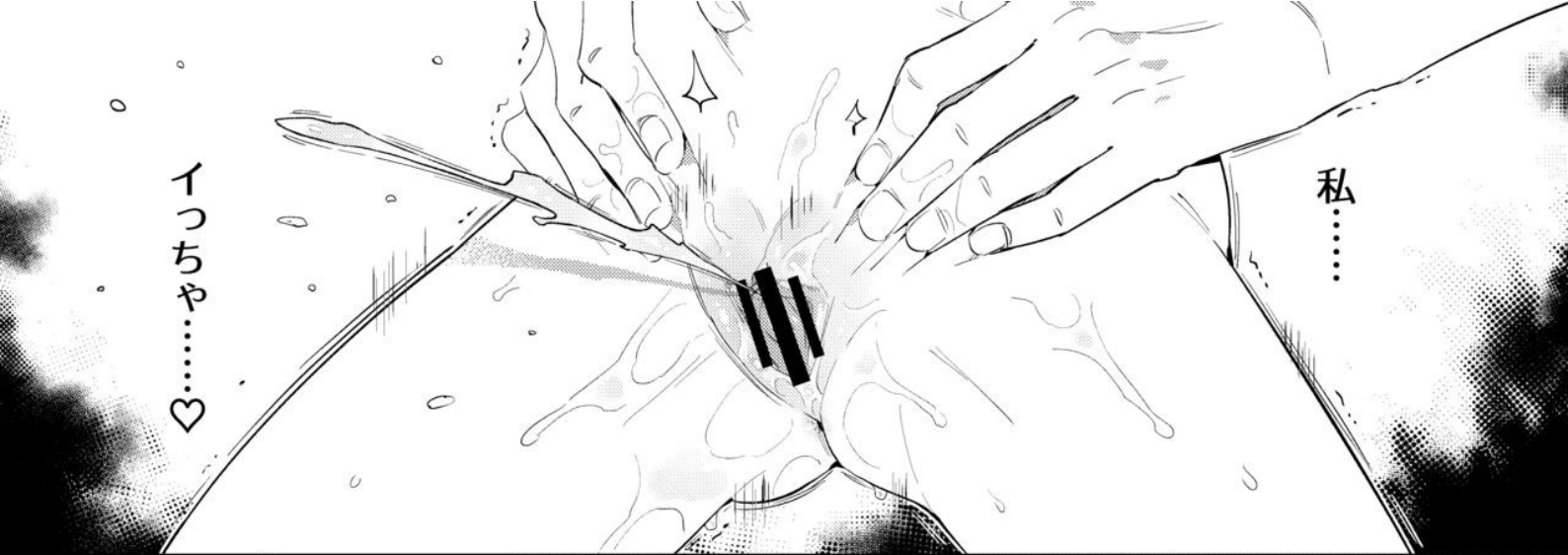
我慢するな  
ひよ子

正直になれ♡

たくさんの…  
手に…  
私の身体…

膣<sup>ナ</sup>内<sup>カ</sup>  
掻きまわされて……っ♡

おっおっおっ  
おっおっおっ



イツチャ……♡

私……



昔は花のように  
可愛かったが

今はより  
美しく可憐に  
なったな  
ひよ子……♡

フフフ……



は……

は……

ビクニ  
ビク

ビク





こんなの...  
入いらな...っ



痛いのに...  
どうしてこんな...

おなか  
子宮が  
疼くの...!?





あ……  
アハハ……

びく

びく

びく

びく

びく

びく



ああ……

ひよち……!!

ひよち……!!



んぎっ!?

ひよち……!!

びく

びく

びく

びく

びく

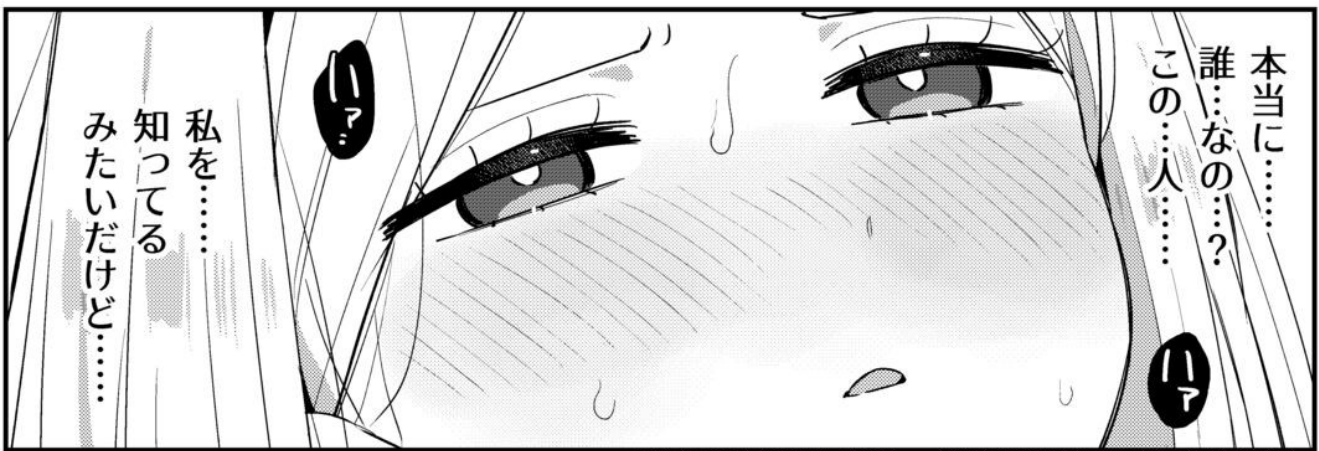
びく





フフ…♡  
お転婆な  
お前も良いが  
しおらしいのも  
良いな……

ズキ  
ズキ  
お  
あ



本当に……  
誰…なの…?  
この…人……

私を……  
知ってる  
みたいだけど……



ひよ子…

もう俺を  
一人にしないでくれ…





九十九…くん…?



やっと思い出したか

ひよ子



約束したよな!

再会したら  
子作りしよう!!

ハキョウ

お前が約束  
してくれたんだぞ!!

ハキョウ

俺はずっと  
待ってたんだ  
お前と再び  
会えるのを!!

だが  
いつまで経っても  
お前は来なかった!

嘘を吐かれたのかと  
思った!

でもこうして  
来てくれた!!



こうやって  
思い出して  
くれたのだから!!!

お前が一時  
忘れていようが  
もうどうでも良い!!

こうして今  
俺達は子を  
作っている!

こんなに幸せな  
ことがあるか!?

なあ  
ひよ子!!

ピクン

ピクン

ピクン

ガッ

ガッ

ピクン

ピクン

ピクン

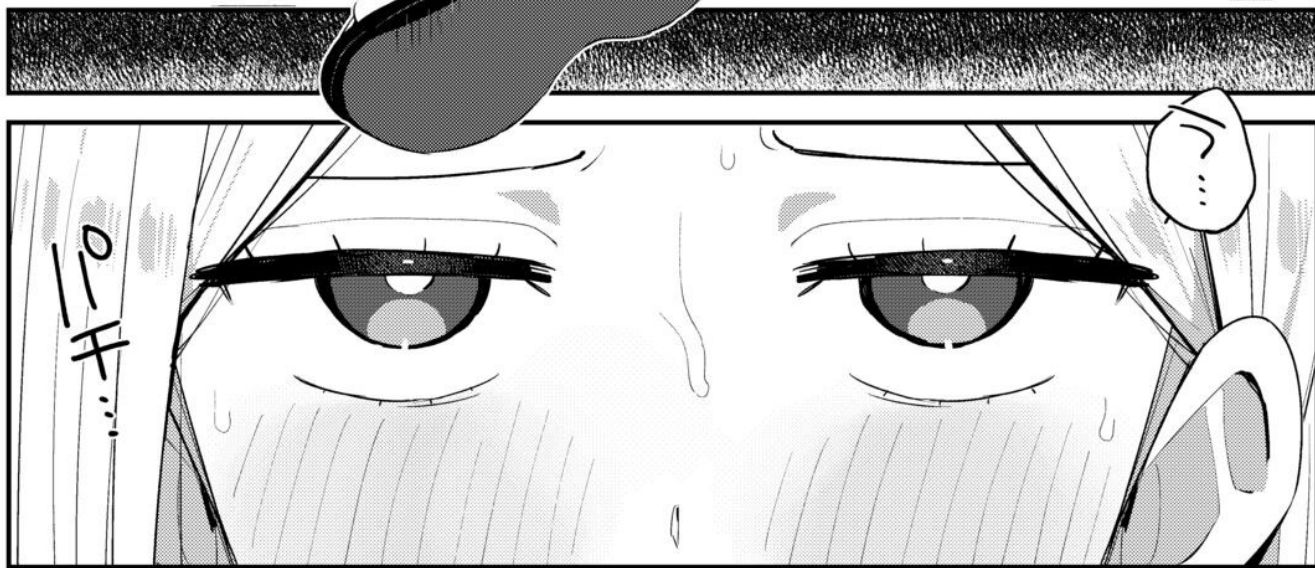
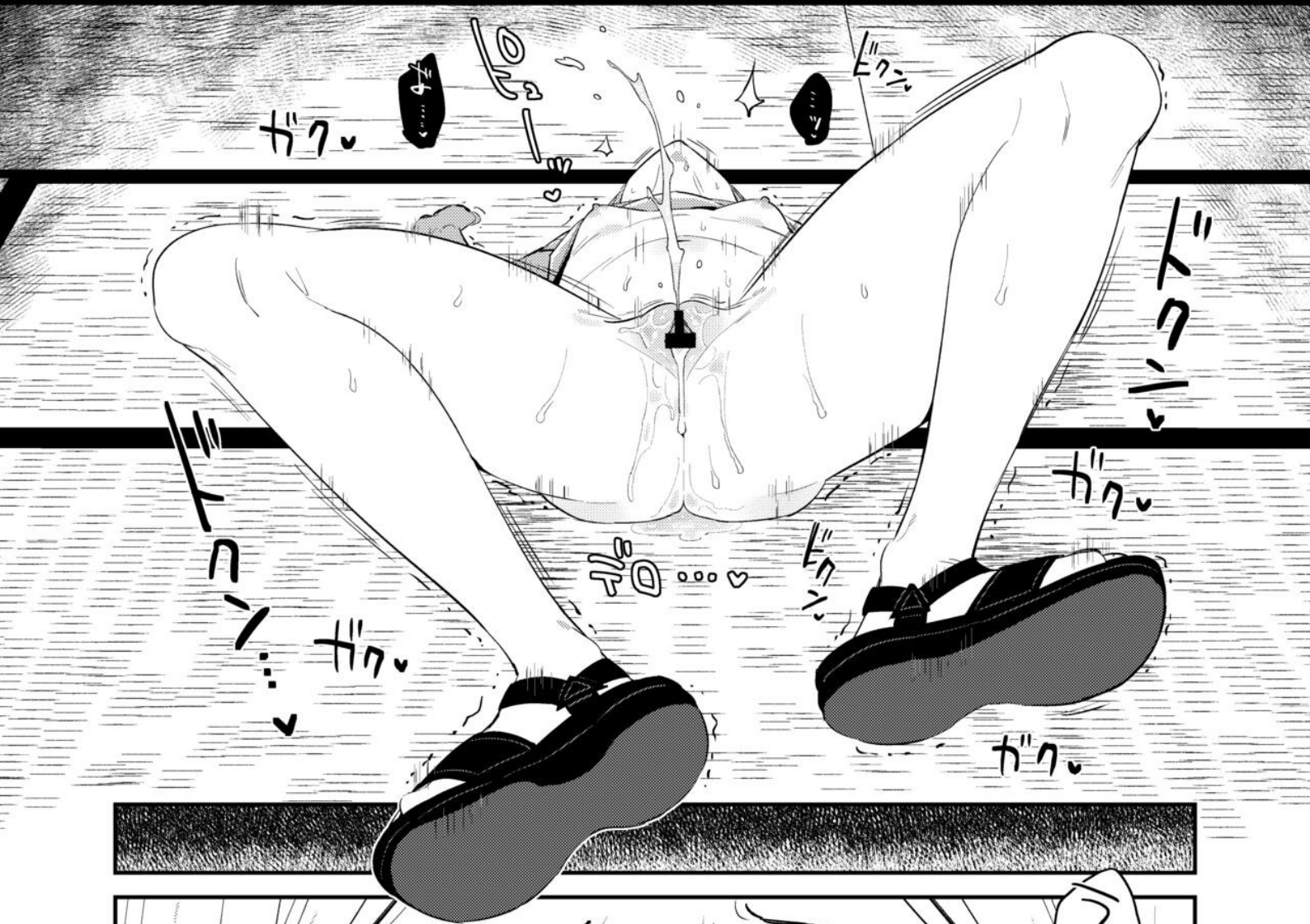
ピクン

ピクン

ピクン

ピクン

ピクン



ひよ子…  
目覚めたか……

…すまん  
つい調子に  
乗りすぎた

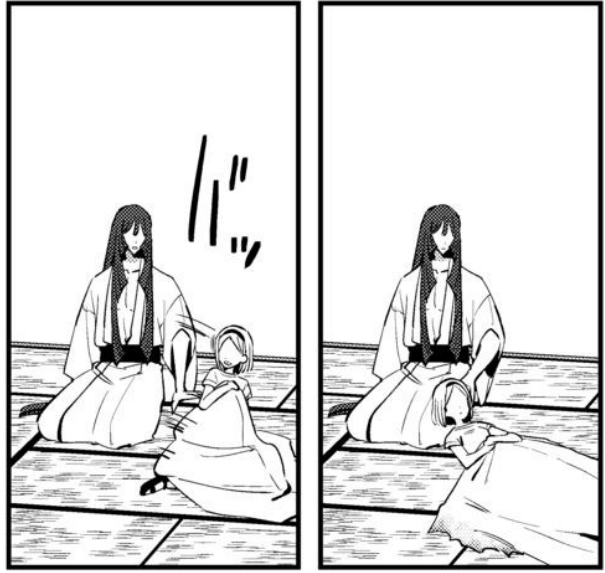
お前が  
思い出して  
くれたのが  
嬉しくてな…

思い……？

…そうだ…私…  
九十九くに…  
めちやくちやにされて  
気を失って……

思い出せる  
記憶の数々…

あれ？  
服着てる…





ああ  
そうだ

九十九だ



本当に…  
九十九くん…  
なんだよね……？

じ とっ



…たった  
6年でここまで  
大きくなる？

同じ年  
くらいじゃあなかった？

俺の姿かたちは  
見える者の心理が  
反映されている



…なんで  
忘れちゃって  
たんだろう

毎年夏休みは  
こっちに来てるのに



それにしても…





それにしても…

俺の嫁に来るために  
やっと帰って  
来たのかと思ったら  
あろうことか全てを  
忘れていたとはな

まったく  
お転婆なのは  
変わらん



毎年  
夏休みの一週間だけ  
こっちに泊りに  
来てるんだけど  
神社に来たのは  
あの時以来かな…

…それにしたって

次会ったら  
子作りしようとか  
意味もわからず  
約束しちゃうなんて  
私もバカだなあ…

ハァ…



……ッ!?  
なにその間…  
ウソでしょ…!?

今日起きたことは  
お前にとっては  
幻覚のようなものだ



九十九くんって  
アレだよね…  
人間じゃない的なやつ  
なんだろうけどさ…

まさかとは思うけど…  
…できないよね…!?





フッ  
フッ

キョッ

キョッ

フッ  
フッ

フッ  
フッ



キョッ  
キョッ

ウソでしょ  
これでイ…っ♡



あっ♡

は…恥ずかしいよ  
これえ…っ♡

ひよ子は  
乳首が弱いな♡

うるせ…っ♡



フフ…乳首だけで  
イってしまおうとはな…♡



そんなに腔内ナカで  
きゆうきゆう  
絞めつけなくとも

俺はどこにも  
いかないから  
安心しろ  
ひよ子…♡

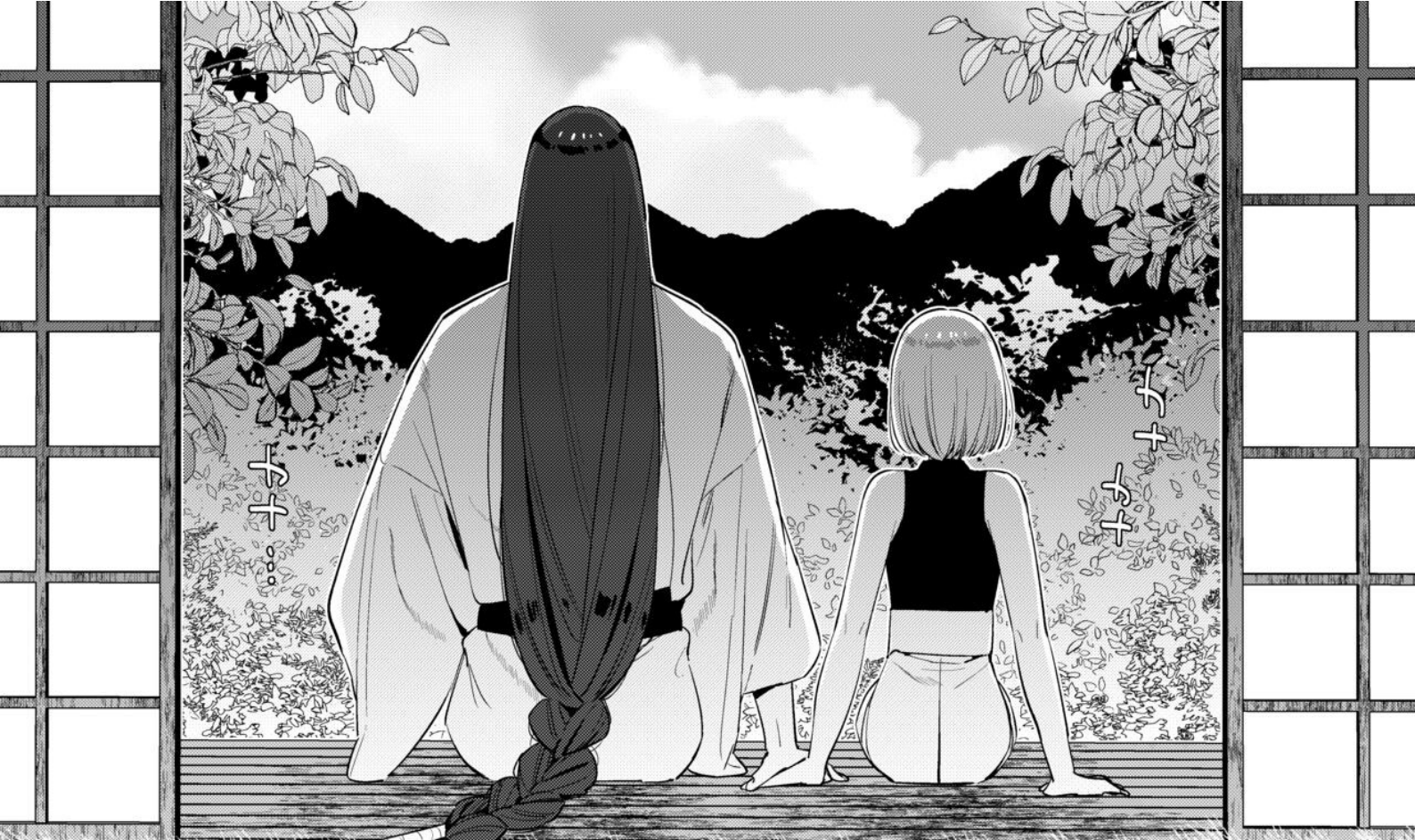
これやば…♡

声出ちゃ…♡

それから私は…

残りの夏休みを  
全て九十九人と  
過ごし……

そして  
おばあちゃん家で  
過ごす夏休み  
最後の日……



…今日で最後か  
また会えなくなるのか…?

またすぐ会えるよ

でも次は  
お正月かな…

…力づくでも  
お前をここに  
留めさせる

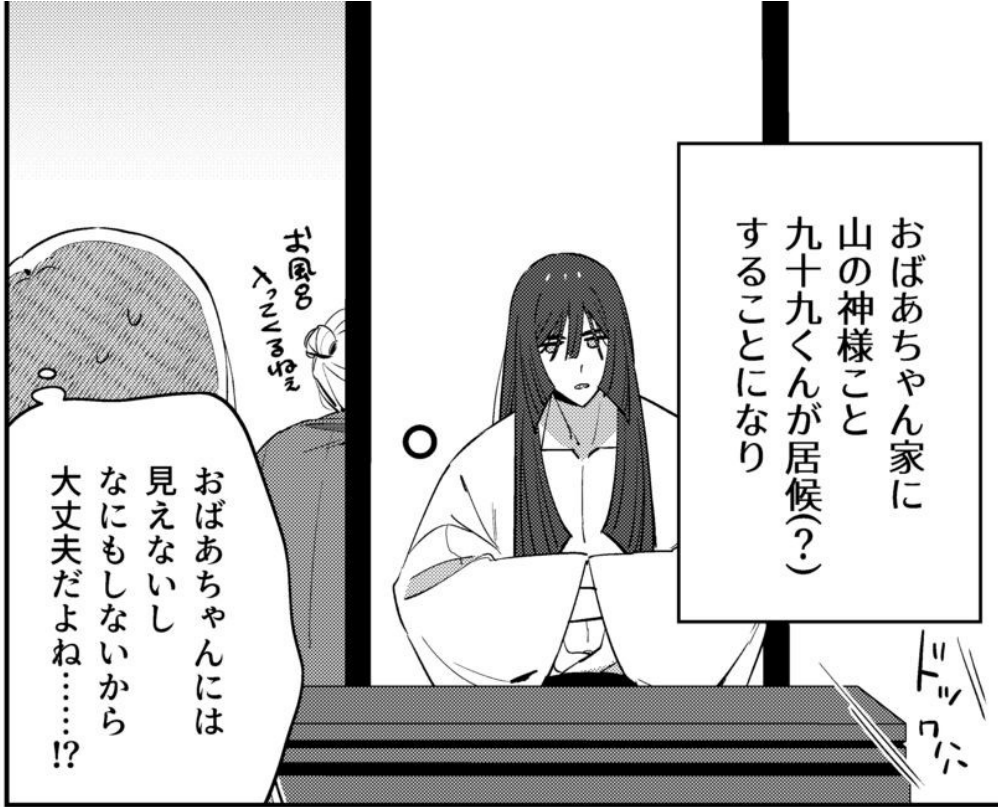
…と言ったら?

それって  
神隠しのな?

できるなら  
あの頃に  
とつくに  
やってるでしょ

…痛いところを  
ついてくるな…





おばあちゃん家に  
山の神様こと  
九十九くんが居候(?)  
することになり

お風の  
クニタダ

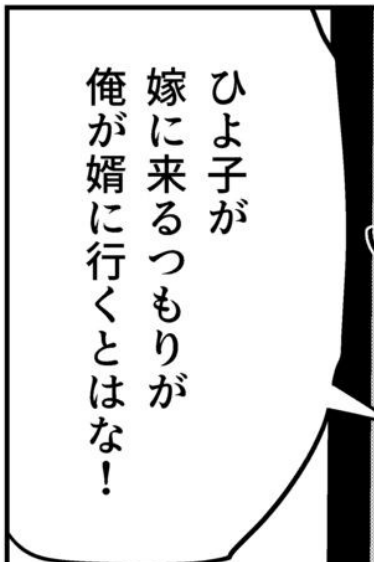
おばあちゃんには  
見えないし  
なにもしないから  
大丈夫だよね……!?



こうして



俺と  
結婚するのは  
嫌か?



ひよ子が  
嫁に来るつもりが  
俺が婿に行くとはな!

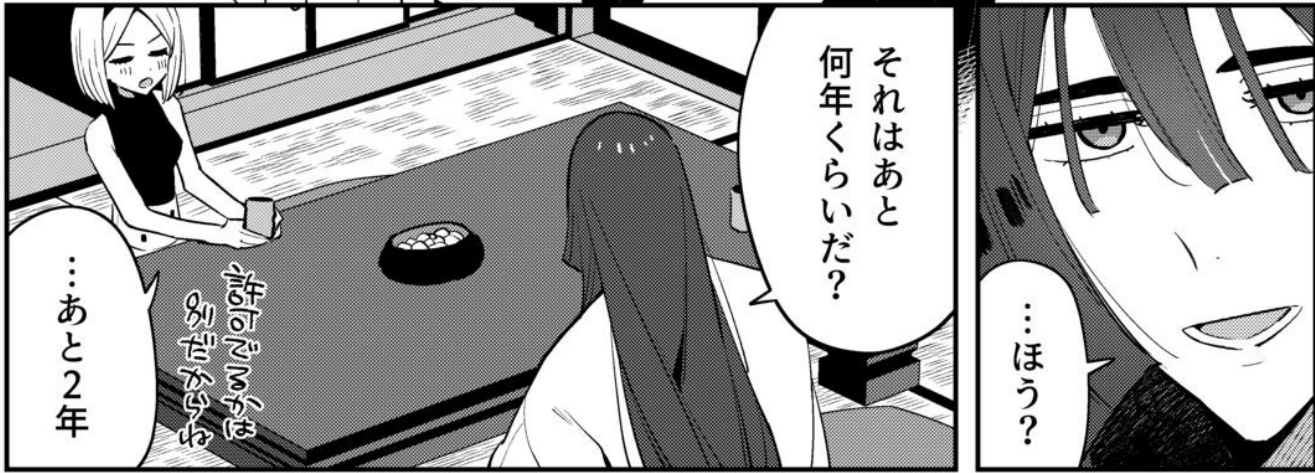
だから  
結婚するなんて  
言っていないし…

すこ  
笑顔…



結婚なんて  
まだわかんないよ…

ブズ…



見よう見まねで  
作ってみた

離れている間も  
肌身離さず  
これを付けて  
常に俺のことを  
感じている

す…すごいよ  
九十九くん!

三ツ持の海草屋

え…  
これ……!

すごく素敵…!!  
ありがとう!

お婆あちゃん家で  
過ごす  
田舎の夏休み

お前が霊体となり  
俺の子を孕める  
ようになるまで  
いつまでも待とう

はいは…  
え?

来年も  
楽しみ

—おわり—



死んでも逃げられたい  
…霊体って